

作業2: HR に帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

僕は和楽器の歴史、和楽器の音はすごいものだと感じました。

和楽器の歴史が元来越いとは知りませんでした。ことは最初、中国の遣隋使から伝わり、長い時代を超えて今あるものだと思います。

昔、シャハセン人は 戦国時代という、戦い中に身をかわらす

入ってきた、そこから長い歴史を重ねて今あるというのを教えるすごい

ものだと感じました。さらに、その2つの楽器から、合奏が生まれ

そこから他の楽器も増えてきたので音楽の文化も発展して行ったのが

正直信じられません。和楽器の音はものすごくじんわりと聴こえていて

心がやわらぎました。

この音は、一音一音がよく響き、それが心に響きました。

昔、音を重ねることにより深い味わいを出していました。同じリズム

をきかしているところもありました。シャハセンの音は、少しだけ

それが歌とソングしていました。でも一音一音がよく響き

ました。どこの楽器もとても美しい音で、日本の伝統文化を感じる

ことが出来ました。

この機会をもち、日本の伝統文化に触れてみようと思いました。

今日は良い体験になりました。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

私は、今まで琴など日本の楽器についてあまり
知っていませんでした。でも小学校の音楽の授
業で1回お琴をひいてみたことがあったり、コン
クールで琴のライブの演奏を聞くなどしたことは
あったので、今回、琴の音色やひき方だけでなく
琴や三味線など、日本の楽器の歴史が知
れてためになりました。やっぱり、一言で琴
と言っても、その曲が作られた年代や場所
が違えば、全然違う曲の感じやひき方になる
ことが分かりました。「六段の調」と「五十鈴川」
でも、同じ琴でひいているのにひき方や曲の感
じで全く違った曲そう。音色に聞こえてきたので
おもしろいと思いました。講師の方の「今は伝
統になっているが昔はこれが現代の音楽だった」という話
を聞いて、お琴の演奏を、またちがう角度から聴
くことができました。最近、現代音楽と琴のコラ
ボなどもあるとニュースで聞いたことがあるので、琴や
三味線など、伝統芸能はこれからも姿を変えなが
ら大切にされていくと思いました。

作業2: HR に帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

私が箏や三味線を本格的に生で聞くのは今回が初めての体験でした。私は(ポア)やオーケストラなどを通して、西洋の音楽とはよく関わりがありますが、日本に昔から伝わる音楽とはあまり関わりがありませんでした。今日、鈴木先生のお話を聞いて驚いたのは、箏が日本独自の楽器ではなく、外国から伝わったものであるということです。それも、奈良時代というとても昔のことだったので、更に驚きました。奈良時代といえは、丁度今、社会で勉強している範囲で、私にとっては想像のつかないような昔で、遣隋使が送られたと習いました。その遣隋使が日本に伝え、現在まで文化として残っているということはとても素晴らしいことだと思いました。しかし、楽器の材料として、本来は絹や象牙、動物の皮などの全て天然の物が使われていましたが、最近ではごくわずかの人の演奏会以外は、化学せんい、プラスチック、人工の皮が使われたりもするそうです。弾きやすさや長持ちやすさなどを追求することも大切ですが、日本古来の素材で作られたものもなくさず、これからも残して伝えていってほしいし、自分自身も日本の文化をなくさないように、なにかできることを探していこうと思いました。

作業2：HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文：

講師の方の話聞いて私は、日本の文化のせん細さと歴史の関連性を感じました。

日本の文化のせん細さは昔から感じました。心に直接響くような大担さと心にしみるようなせん細さを兼ね備えた日本古来の楽器の生の音は本当に感動しましたし心にしました。五十鈴川では、川の流水のような、なめらかな場面が一番印象に残りました。聞いただけで雄大な川の流水が頭に思い浮かぶような大担さもあり、せん細さもある音でした。

歴史の関連性というのは、渡来人が奈良時代にこの原形も日本に伝えたときこんな所で、社会(歴史)と音楽がつながっていて、やはりこの世界はどまかで全てがつながっているんだなと感じました。

これから世界との交流も増えていくと思うので、その前に、自国の文化を知っておくことが大切だと思った。これから自国の文化を知る機会を大切にしよう深く学び、感じていきたい。

自国の文化を

作業2：HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文：

今日 鈴木先生の公演と演奏をきいて、とてもびっくりしました。なぜなら、お箏やお三味線には深い歴史があると分かったし、音色が思っていたよりもずっと美しく繊細だったからです。私のおばあちゃんがお箏をやっているのを少し教えてもらったり、学校で習ったりもしましたが、あんなに深くてだけど柔らかい音が出るなんて知りませんでした。先生が演奏されている姿を見て、先生は本当にお箏やお三味線がお好きで、1つ1つの音を大切に、丁寧に、気持ちをおこめてやっていらっしゃる感じがすごく伝わってきました。また、歌声も初めてきいた分野？でしたが、すごく豊かでのびやかだなあと感動しました。私も、ピアノと歌を習っているのですが、楽器はちがうけど、先生みたいにきれいな命があるみたいな音を奏でられるようになりたいです！

今日は本当に本当に私にとって良い刺激になりました。ありがとうございました！！

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

今日の日本伝統文化体験ではおし^ぎ箏としゃみせんについて学びました。
箏は作作のときに音楽の授業で習っていて、そのときととても
興味を持ったので今回の日本伝統文化体験でさらに
興味がわきました。授業ではピアノで六段の調という曲を聞いた
けれど今日は生の箏の演奏を聞くことができたので良かったです。
また、三味線の生演奏ははじめて聞いたけれど歌いながら演奏する
ことを知らなかったのがおどろきました。三味線の黒髪という曲は
現代の曲に比べるとラテンビートに似ると聞いておどろきました。
そして、猫が犬の皮を履て楽器を作っているというところで少し面白いおな
気もしました。今日鈴木さんが演奏した曲の中では一番五鈴川と
いう曲が気に入りました。六段の調になるとは300年ほど続いていると
作られた曲なので少しロマンチックで現代、ほかのアーティストの音と違って
きれいなハーモニーができていたからです。曲の中で何度もふいふが変
わっている感じがたてです。また、日本古来の楽器はほとんどを自然の
木で作られているので、日本古来の音楽の美しい音は自然の木の
を伝えているからなのかなと考えました。今回の講演で日本の文化
についてもっと知りたくなりました。日本の魅力のあらましを
新たに知ることができて良かったです。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聞いた感想を書こう。

感想文:

今日は日本伝統文化体験「和楽器の歴史と音」がありました。講師の鈴木創さんは箏曲家です。箏曲家は箏の普及、育成、演奏などさまざまなところで活躍されています。

今回私は鈴木先生の話聞いて思ったことが2つあります。1つ目は日本の和楽器は歴史が長く、その歴史を積み重ねて、今の和楽器があるということです。箏や三味線はもともと中国から伝来してきたもので、日本でつくられたものではありません。

しかし、中国のものだったとしても今までの歴史の中でたくさん日本人に大切にされてきたからこそ今の和楽器があると思いました。2つ目は和楽器の音の繊細さです。特に箏ではある一程の音を組み合わせながら演奏します。でも、ただ弾くだけでなく「五十鈴川」のような水を表現したりするのに、細かく弾いたり、音を少しずらして演奏したりと、さまざまな工夫がされていて聞いていてもあきないし、聞いて、箏のしつじの音を楽しめたことができました。また、三味線でも速くしたり遅くしたりとスピードを変えたり、強弱をしたりと工夫されていていました。三味線の「黒髪」という曲では歌もついていて昔の人たちが楽しんでいた曲を実際に聞くことができたのでとても素敵な体験でした。今の私たちは和楽器にふれることがあまりありません。今日のような和楽器についてふれるような機会があるとやはり日本人ではかたはたと改めて感じました。今後は自分自身から和楽器の世界に入るというのは難しいことですが、Eテレは息抜きで箏や三味線など日本の文化にもふれていきたいと思っています。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

私は小学生のときに少し箏の歴史ほどに調べたことがあって、

「あ、これ知ってる!」と思ったり、「へえ、そうなんだ。初めて知った!」と思うことがあり、改めて箏について調べて良かったと思います。

また、私は授業で箏を弾いたことがあったのですが、柱を打て

たりするところから難しく、先生おたりにあんまり手馴れずにひくことができなかったため、プロの人には全然と改めて思いました。

箏の歴史のところで「ハコ橋 けんぎょうじん」についてで、この「けんぎょう」

は役職名であり、けんぎょうはランクの中で一番上というふうに出て

いたため「本名は何なのだろうか?」と疑問に思いました。また、

けんぎょうさんがいたから、今の箏の基礎ができていたため、あの京都

の「やまほし」があると思うとすごく大切は存在だ、と感じました。

今回、鈴木先生が4曲を弾いてくださり、どれも

すてきな曲ばかりでした。その中でも私が一番驚いた興味を

持った曲は「くろかみ」です。この「くろかみ」の意味が

「黒髪」が、た片思い。ということで曲の雰囲気も少し暗

めでテンプも中々、くりぬいてこの片思いをしてくる人の気持ちを

歌っているのかなと思いました。今回、しっかりと箏について調べて

「あ、詳しく知りたかった。自分でも弾いてみたい」と思いました。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

箏が何百年前の奈良時代に伝わってきた存在と知り驚いた。むしろ最近だと思っていたので、思っていたより長い歴史がこれに驚いた。また「箏」と「琴」が何百年の疑問に思っていたので、この機に解決できて良かった。音楽の授業で「大段の調」を聴いたことはあったが、やはり生演奏は迫力が違った。このころと変化する曲調がとても素敵だった。三味線の伝来に、個人的に大好きなお堀さんが関わっていたことがとてもうれしかった。「黒髪」は現代でも通用しようという切ないう意味と歌詞がたし鈴木さんの声域がとてもよくマッチングした。歌いながら弾くのはとても大変なはずなのに、それをおいしく感じている演奏だった。また、最後の方の「五十鈴川」は、以前行ったことのある風景が脳裏に浮かぶほど素敵に演奏で、伊勢神宮と五十鈴川の様子、情景が目に浮かぶようだった。また、「大段の調」よりも多くの奏法を用いていて、かなり近代的に感じた。作曲した宮城さんも演奏した鈴木さんもいいと思った。

最後の「さくらさくら」の合奏もアレンジが面白く聴いて楽しかった。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

私は2年生のときに音楽で笛に触れたことがあったものの、
20日の演奏を生で聴いたことはありませんでした。笛の表現の
広い幅と、響きの奥深さに驚きました。

私は地元のお地域で、獅子舞の笛をやっています。正直、
獅子舞を見ることに楽しむは感じられません。でも、笛を端々と
吹いている姿は「けむい、もうまくなりや」と、自然と褒めるので。
また、獅子舞や笛で生まれる人間関係もあります。登下校
中に話しかけてもらえたり、大人に混じって会話を楽しんだり
で生まれるのは、それだけでも嬉しく思います。そして、こうして
生まれる関係というのも、日本文化のひそかな奥深さを感じ
るところだと思います。

私は今日、「グローバル人材育成の基礎となる、自国文化への
理解を促す」という目的で講演を受けました。今まで持っていた
表面上の「けむい現実の正しいものも、関係者のかたに実体験を
もって話をしもらうことで、日本文化の奥深さを改めて実感
することができました。これから積極的に日本文化に触れ、
日本人として、誇りを持つていきたいです。

笛 本当にかっこいい！ 笛の練習がんばりまう！

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

今日の講演では、^尺箏・三味線について教わりました。箏に関しては、1年生のときに音楽の授業で習ったので、得意に感じました。三味線は初めて見ました。ハチが意外と大きくて驚きました。また、三味線の形が、とてもおもしろい。豆矢^{三味線}のようなものも、下くさ人教わりました。とても楽しかったです。

今日の講演では、私は箏を演奏しました。「すくら」です。本番では、2ヶ所くらい間違えてしまいました。でも、友達の間くさ「さくら」のおかげで、とてもいい音が、よかったです。緊張するのは、楽しかったので、出来ていたよかったです。とても楽しかったです。

今回の日本文化体験では、とても貴重な経験ができました。「すくら」も自分の国の伝統を大切にしている人はいっぱいいる、と思いました。箏の演奏が、とても楽しかったです。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

前期生のときの音楽の授業で箏をひいたり、鑑賞したりすることはあったが、実際の演奏家の方の演奏を聞くことはなかなか無い機会があるので、とても良い機会であったと思う。日本文化の勉強にも有意義な時間であった。

箏と三味線の歴史、どのような楽器で演奏してこられたのかなどを知ると同時に、昔の時代の歴史的背景についても知ることができよかったと思う。

「大段の調」「果翫」「五十鈴川」を実際に演奏して頂いたが、音の高さや長さ、和音、響きなどが弾いていて全く違って聞いていてとても楽しかった。鈴木さんが箏、三味線は自然の木ので作られ、自然の音であるとおっしゃったが、本当に繊細で美しい音色だった。

グローバル人材育成が本気で進められており、異文化について知る機会がどんどんあるが、自分は国の文化について知らないと感じさせられているので、今回、日本の伝統音楽についての知識を得ることができ、よかったと思う。今後も、日本の伝統文化について学んでいきたいと思う。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

3ヶ月の時の音楽の授業で初めて箏を弾きました。最初の頃は弦をはじくのが怖くて木更で難しい印象がとて強かったのですが、あんなに美しくいろんな音をすくいだせる楽器には会ったことがありません。

箏の流派は数多く地域によって異なると聞いていましたが、実際には2種類の流派しかなくて驚きました。しかし、この2つの流派には違いがなくてある程度は似ていると驚きました。

三味線は弾いたことがなくて新鮮な感じがしました。胸にバチしつを取っても15種類もありしかも持ち手も独特でいろいろな部分を新しい視点で見ました。三味線には各々又の段々つがっている美しいのびがあり、それらを使って作っているからとて木更に美しく弾くことができるのかなと思いました。

和楽器はいろいろな自然的材料を使っているのでものの楽器は音色がやわらかいかなと思いました。その伝統芸能を大切にしているかによって違いがあるかなと思いました。

今は授業で篠笛をやっているのですが、弦楽器もやってみたいかなと思いました。ぜひ体験がてらみたいです。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

今日の講演内容は日本の伝統文化である和楽器についての講演でした。実際に和琴を見るのも演奏を聴くのも始めてではありませんでした。三年生の時にお祭りの演奏がありとても弾いていて難しく思っていました。実際弾いてみるとなかなかきれいな音を出すことができて素晴らしいと思いました。先生の演奏を聴いてとても感動しました。スピード感であつたり、表現の工夫、間のとりの仕方など細かい点を表現されていてとても美しく感じました。

その他の楽器の説明であつたり、和琴の他に三味線の演奏も聴くことができて良かったです。話を聞いていると和琴では、楽器の一つ一つを丁寧に造られていると中々とても繊細な素材を使っていること、日本の楽器は自然の素材でつくられたもので、その楽器を演奏するからして日本人の心にも響くし、他国の人々にも響くのだと思いました。

今日の講演を改めて日本の伝統文化である和楽器を知ることができて良かったです。とても長い時間でした。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

今日は鈴木創先生に来ていただき、箏や三味線についての説明や実演、そして教員の生徒との合奏もしていただきました。まず驚いたのが、箏の漢字は「琴」だと思っていたのに正しい表記は「箏」だということです。三年生の音楽の授業で箏をやったことがありましたが、今回の講演で新たな発見が多くありました。箏曲家というお仕事についてあまり知らなかったのですがよく知ることができました。そして、「生田流」と「山田流」という箏の二大流派についても、授業で教えていたよりも理解を深めることができました。新たに知った中で特に驚いたのは「当道座」の存在です。入会に条件がある上に政府から特別に認められている仕事があった、ということに驚きました。三味線についてはほとんど知識がなく、「長唄」と「地唄」について知っている程度でした。猫や犬などの動物の皮も本体に使っていることに驚きました。当道座がなくなり、一般の人でも楽器を演奏できるようになったことから庶民の気持ちが多く歌われるようになった、というのが納得できました。多くの日本の楽器は自然の素材を使って作られているので、「マイクやアンプを通さずにありのままのそのままの音を聞いてほしい」というお言葉が強く印象に残っています。私は今まで現代の邦楽ばかり聞いていたが、少し昔の伝統の音楽にも興味を持つことができました。ありがとうございました。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

西洋の和楽器を演奏している身として、やはり身で「興味深い」話でした。
家に「お琴がある」と昔はよく強いて聴いていたのを覚えています。その筆の
歴史などを知ることができ、その上、その「南無の演奏」は、
伴奏の全体は美しい音が響く感じがした。一音一音が
はっきりと響くのを聞いた。そして、その「お琴」と思っていた。
「お琴」は、日本の男性の作品で、その「お琴」は、お母が「お琴」に「お琴」
の歴史を知ることができた。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
の歴史を知ることができた。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
「五ヶ敷川」は、自然の美しさを感じることができた。自然の風景が
感じることができた。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
は、「お琴」の曲で、表現された。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
表現された。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
「お琴」は、五ヶ敷川で練習していた。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
感じることができた。そして、その「お琴」は、お母が「お琴」
思っていました。機会があれば、他の楽器と合奏してみたい。
思っていました。今回の講演で、和楽器にやり
興味をもつようになりました。日本の素晴らしい伝統
文化を大切にしていきたいです。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

今日の講演で今まで箏の音は単なる
ツネツネだと思っていた自分の考えが大きく変
わりました。強い芯のある、よく響く楽器なの
だと気がきました。一人で弾いて主役のように輝
いていて、トロンボーンを吹いている私ほど
がれを抱きました。曲中では右手と左手が同
時に使われている、その輝きの違いがあら
わりました。右手がポイントばかりとあっている景色を表
している、左手が景色の雰囲気や水面の波を
描いているように感じました。また、背すそを
しっかりとほし着物で弾く姿は美しく、日本
の芸術であり美事のたに思いました。今日、
和楽器と洋楽器を組み合わせるバリエ
ーションはあって、日本の雅楽の音を聴く
機会が増えていますが、やはりほし、静か
に雅楽の響きを楽しめたに思いました。
今日は、このような講演をうけられて、本当に
良かったです。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

前期生の時の音楽の授業で体験した等々が、
ただでさえ音楽センスの低い私は挫き倒れたり
音感全く伝わらなかつた。非常に難しかった印象
を持っていた。専門的に等々弾く人の演奏を
生で聴くのはとても貴重な体験であつたわ。
今回学校での体験ができてよかった。

鈴木さんの話の中に、日本の伝統的音楽が作
動物も木々といふ自然の素材で作られている。
だから人間の心にひびくのだ...という言葉があつた。
現在の私の身のまわりにある音といえば、
駅のきわがしい音や車のエンジン、クワックン、おバア
人工の物である。しかし今回の演目の"五ヶ峯川"の
中で等々を用いて川の流氷を表現する場面が
あつて、本当に頭の中で川の風景が浮かんだ。
楽器の表現の可能性を感じた。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

すごく日本文化を感じられて嬉しかった。演奏を
生か身思いで、旅館や温泉に行ったときの流
れる音楽のようで色々考えていた。

最近日本文化が海外文化の陰に隠れてしまい
伝統文化について日本人であるのに分かっていない。
海外のものをとり入れることは決して悪いことではない
けれど、こういった文化をもっと身近にしていける必要が
あると思う。箏の音色はゆったりとしていて落ちつくもの
だった。ピアノカポターにはだせない、その強めを生
かした曲もたくさんあってすばらしいと感じた。

しかし、時代の流れとはまた異なる曲が多く、もっと
若者に興味、関心とってもらえるように、現代の音楽
との融合なども行い、そういうものを被認してもらえ
るとより柔軟な講演会になると思った。

私は海外の人に日本の良さを知ってもらいたいと思っ
ているので、この箏もぜひ世界に発信して広げていって
ほしいと感じた。

作業2：HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文：

今回は、和楽器について講演と演奏の両方をきけてとても有意義な時間も過ごせた。音楽の授業で少し勉強したことはあるが、初めて聞く歴史もあり、より一層和楽器への関心が高まった。実際に鈴木先生の演奏を聞くことができ、素晴らしい音色や、箏特有の弾き方やアップテンポのものを間近で聞くことができとても良い経験となった。今まであまり日本文化に触れる機会がなかったため、今後とも今回の貴重な体験をいかして、昔の楽器に触れたり、日本人として自国の文化、歴史について学んだりしていきたい。箏の演奏をきくと、ゆるやかな音楽をイメージするが、最後にきいた2曲は、かなり音がたくさんあり、速かった。とても技巧的だという印象を受け、感動し、自分も箏を弾いてみたいと思った。日本の文化は海外の人たちにも人気があり、とても芸術性があり、日本の誇りだと思っているので、私たちが世代がもっと日本の文化を大事にして、次世代に継承していくべきだと感じた。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

三年の時に 琴の授業をしたとき、和楽器にふれることが
あまりなく、あの演奏家の演奏をきくこともほとんど
ありませんでした。今日、楽器にまつわる歴史やエピソード、
こまかい話まで教えていただいたので、音は知っていたけれど
どんな楽器か知らなかった。琴や三味線のことについて
しつこく知る機会ができたので、日本人として知っておくべき
伝統的な楽器について勉強ができて良かったです。
琴の演奏を聴いて、個性の違う三種類の曲を、
曲の作られた情景を想像しながら聴くことができて
した。琴の一つの音がはじけた後、響きだ空間に残った
持続の音と重なり合う感覚が、他の楽器にはない
魅力が、聴いていてとても気持ち良かったです。私は、
楽器は洋楽器しか習ったことがなくて、日常聴く曲も、ポップ
なものばかりでしたが、今日、目を覚まして琴の音色を聴いている
と350年前の人と心の深い所で通じ合っている、音楽を共有
できたような初めての感覚を味わうことができたので、これから
は積極的に和楽器を聴いてみたいと思います。和楽器
特有の力強さやしなやかさなどの魅力を知ることができて良かったです。

作業2: HRに帰り、今日の講演と演奏を聴いた感想を書こう。

感想文:

今日の講演はいつもと違って、"和楽器"がテーマの和やかな内容でした。
等々といえば、前期生の頃、日中で音楽の時間に演奏した思い出があります。やはり難しかったけれど、"和"に触れることができた貴重な体験でした。
そんな等が今日のテーマ、講師は鈴木創先生で群馬県出身の
箏曲家の方です。(箏曲家なので、^箏専門なのかなーと、思っていた
三味線まで弾き出たのでびっくりしました。さすがアロファシヨナル、
浜の唄も歌っていて、体育館が、いつも昼休みのホールが、一気
に情緒あふれる空間に変わって、趣ある時間が生まれました。
個人的にはかたかなーと思ったのは、ただ演奏を聴くだけでなく、
それに関する歴史、日本史とのつながりを理解することが
できて、とても親密感を感じることができました。多分、どうか
おどく、ほほほほ、受験には出ませんが、テーマ史で万が一出したら
今日のことを活用してみたいと思います(笑) こういった日本の伝統芸能
は、とても歴史深く、価値があるのにもかかわらず、いつかにせよ、音楽の
流行りつがのせいで、親密な儀-ンをもたないというのが普及の問題に
なっているのかなーかと思っています。そんな中でも、"和楽器バンド"
や"SEKAI NO OWARI"のNokajinのように、和楽器
を使ってアピールを行うJ-POPのアーティストも増えています。
三味線の和楽器の普及と発展が楽しみです。